

■ 福井市・上味見地区

まなびやに子の歓声再び

週刊 まちぶら

第43号



一人ひとりに特徴の修了証書が手渡された、ふくい緑の子自然学校の修了式。01年3月に最後の卒業生を送り出して以来の光輝た「旧上味見小学校(現上味見生涯教育施設)」で

開校する山々の間に小さな集落が点在していた。合併で福井市の最東端となった。約100世帯が暮らす旧上味見地区。過疎化が著しく、自然体験小学校だった上味見生涯教育施設(福井市中町)で開かれた。式に参加した18人を代表し、大野市立庄小学校3年の川田悠太さんがこの1年の体験を振り返ると、地域の住民らと大きな拍手を送った。

「いろいろな体験ができて、新しい友達もできたら」

又々又

同学校は、NPO法人自然体験共学センターが地元の協力を得て、昨年4月に開校した。

主に週末を利用しての目標りや泊まりがけで、これまでには県内外から延べ千人の小学生が参加した。野山や川で木の葉狩りや虫取りなどを体験。自然の中で「一日の考え、学ぶこと」や、「一生懸命を学ぶ」のが学校の目的。修生は1年を通して、ほぼ毎週参加してきた子どもたちだ。

自然学校開校 地区の人が先生



上味見地区を一学期の間として準備した理由の一つを、理事長の佐藤は「この地区には、自然学校となる地域の人がいた」と語る。

地区住民も先代校長を引き継いでくれた。木の葉を使った風車作りや、正月のしめ縄づくりなどを率先して子どもたちに教える。上味見小の卒業生は「開校に伴い、100名以上」が戻った。母体母体の協力があって、何となくもろれしかったのだ。

又々又

上味見小が開校したのは1987年(明治60年)児童数は1000人以上に達する284人となったが、最後はわずか1人となり、19年4月に廃校となった地区の住



地元のお年寄りから草あそびを習う子どもたち。05年6月、旧上味見小学校で(自然体験共学センター提供)

DATA

■伊自良氏 源義朝の十男が起源とされる豪族。承久の乱(1221年)での勲功で美濃国伊自良の地(岐阜県)を賜ったが、その後、越前国(福井県)に入り、現在の上味見地区に館を構えたといわれる。太平記には、延元2(1337)年に北朝方と争う南朝方に加勢した同氏の謀略が記されている。曹洞宗の大本山永平寺の発展にも寄与したという。上味見地区に今も残る権八幡神社は同氏が鎌倉時代に造ったとされ、吉拝殿は県文化財の指定を受けた。同氏に関する資料は、復元館が併設された「伊自良の風情資料館」(土日祝日のみ開館)で見ることができる。

■福井市伊自良館 地域間交流の核として、90年4月に建設された天然温泉施設

一写真: 動脈硬化症や慢性皮膚炎、やけどやめがけ、みそ汁の具などにして食べる。河内赤かぶら生産組合女性部が作る酢漬は、土産物としても重宝されている。



などに効能がある。午前10時～午後8時、毎週木曜と年末年始は休館。料金は年齢別に100～800円。

■赤かぶら 800年以上前、上味見地区に住み着いた平家の産人が伝えたとされ、現在も昔ながらの焼き煙草法で栽培されている。野球のボールほどの大きさで中まで赤く、ほろ苦いのが特徴。酢漬

クイズ&プレゼント

上味見小学校が開校した年はいつでしょうか。次のうちから選んで下さい。

- ①明治6年②大正6年③昭和6年
- 正解者の中から抽選で5人に、前取の谷崎篤輝さん製作の竹とんぼとうぐいす笛一客一を、セットで差し上げます。竹細工職人でもある谷崎さんが、山で切り出した竹を使って丁寧に仕上げた作品です。

はがきに住所、氏名、年齢、電話番号、クイズの答えの番号を書いて、〒910-0005 福井市大手3の11の6、朝日新聞福井総局「まちぶら」プレゼント係へ。31日必着。ご感想や取り上げて欲しい場所もお寄せ下さい。当選の発表は発送をもってかえさせていただきます。

